

家庭

「歯磨きの弱者」の歯を守る

あめタイプのキシリトールで効果

障害がある人や高齢者にとつて、歯磨きは意外と難しい。川崎市歯科医師会は2年前から、障害者向けにあめタイプのキシリトールやフッ化物を使った虫歯の予防治療を始め、効果をお

げている。

料だ。

知的障害があるさらちゃん、3年前、乳歯に4本の虫歯ができた。同センターで治療を受けた。翌年、同センターが始めた虫歯予防治療を受け始め、ほとんどが永久歯に生えかわった今、虫歯はない。母親の美由紀さん(36)は「自分の力

で正しく歯を磨くのは大変なので」と話す。

同センターでは、99年から月に2回、障害者向けの予防治療をしている。歯科医師の小池匠さんが、健常者の患者と比べて、障害者の虫歯の再治療が多いことに気づき、予防治療を提案した。現在70人の患者が通っている。

障害によつては、口に歯ブラシを入れることが難しい人もいる。歯の状態をみて、1カ月から半年に1回、歯こうを除去し、歯にフッ化物を塗布し、口の中を消毒する。自宅用にフッ素入り歯磨き剤とあめタイプやガムのキシリトールを処方する。小池医師は「予防治療を始めてから、虫歯

の治療をしなくて済む人がほとんどです」と言う。

小池医師が13歳から37歳までの30人の障害者を調べたところ、1年間の虫歯治療平均本数は、予防治療を始めてから半減していた。

東京都千代田区の日本歯科大学付属病院の鈴木章助教授は、高齢者の虫歯予防にキシリトールを活用している。「歯は高齢者にとって生命線。1年でも2年でも長持ちさせたい」と鈴木助教授。

川崎市高津区に住む花井さらちゃん(10)は、毎月1回、同市中原歯科保健センターを訪れる。研磨機で歯を磨いてもらった後、表面にフッ化物を塗ってもらい、あめタイプのキシリトールをなめる。キシリトールは虫歯菌や歯こうを減らす働きがあるとされる甘味



障害者の虫歯予防の治療をする
小池匠歯科医師(右)＝川崎市の
中原歯科保健センターで

大事に残したい」